

博物館展示室空間の快適性に関する研究
～高齢者を対象として～

Research on the comfortable nature of museum exhibition room space
Be targeted at elderly people

○會田知美¹、八藤後猛¹

*Aida Tomomi,¹ Yatogo Takeshi¹,

Now, Japan greets a super-aged society and a museum does not have few things which spend the time of elderly people's people's leisure and which a place is carried out and are used, either. A difference is one of those for which a museum is asked among men and women, and a male thinks as important the "incentive nature" which makes mind of inspecting cause. It proposes preparing some inspection courses of the exhibition room of a museum. It takes focusing on the break space between the skies, and at the same time as it installs the course which divides each exhibition room into small space, and can inspect it continuously around it, it enables it to move to a break space directly from each exhibition room.

1. 研究背景・目的

現在、日本は超高齢社会を迎え、高齢者の余暇の時間を過ごす場・生涯学習の場として博物館の需要は少くない。博物館はバリアフリー法の対象にもなっているが、移動に関する問題を主に取り上げている。展示物・建築空間を合わせた展示室空間の快適性については、法律上の規定はない。そこで、本研究では、展示室空間の現状を把握し、高齢者を中心とした世代からアンケート行い、それら両者の情報から博物館の展示室空間の快適性の構成要素を抽出し、高齢者が快適に博物館見学ができる展示室空間の提案を目的とする。

2. 研究方法

本研究では、文献調査により、博物館展示室空間の法律上の規制・展示物への博物館側からの配慮を把握し、対象施設への現地調査により各展示室空間の空間的特徴と問題点を把握し、来館者への空間評価を行う。アンケート結果との結び付きを考察する。

2-1 調査時期

調査時期は、現地調査・アンケート調査を並行して、11月中旬～12月中旬に行った。

2-2 対象施設・展示室

対象施設・展示室は、以下の条件に合うものとする。

■博物館

- ① 県立の博物館であること。
- ② 自然・科学系の博物館（展示室）であること。

■展示室

- ① テーマごとに分けられた空間を1展示室とする。
- ② 大規模なジオラマ展示や映像展示を含まないもの。

Table.1 Room facilities subject

博物館名	対象展示室
 埼玉県立自然の博物館 設計前川國男設計事務所	
 ミュージアムパーク 茨城県自然博物館 設計：仙田満 環境デザイン研究所	
 千葉県立中央博物館 設計：日本設計	

3. 調査結果

3-1 現地調査結果

展示室に関して、どの展示室も車いすで乗り越えら

1：日大理工・院（前）・建築、2：日大理工・教員・建築

れない段差は無かった。しかし、方向転換するにはスペースが足りない箇所が見られた。設立当初からあるという展示物のほとんどは、車いす利用時のクリアランス部分がなかった。また、段差により展示物に近づけないことや、突起物により通路スペースが狭くなっていた。展示物の高さについても車いす利用者の視野から外れているものがあった。

3-2 アンケート調査結果

現地調査で決定した3施設で、高齢者を中心とした成人の来館者を対象とした。配布時期は11月中旬～12月中旬で、全館合せて配布数610部、回収数209部、回収率は34.2%となった。

〈アンケート調査結果 館全体〉

埼玉県以外の博物館では「休憩したい」と感じた人は60%以上になった。埼玉県は最も規模が小さく4展示室であるため、「休憩したい」と感じる人は少ない。茨城県は8展示室、千葉県は7展示室であった。休憩を必要とする人は半数以上であるが、休憩が必要ときに休憩できない計画となっている。

〈アンケート調査結果 展示室〉

SD 調査結果から、「見やすさ」・「すごしやすさ」・「疲労感」グラフの評価の良い凡例の数値が3.5以上、2.5以下の形容詞と、最も大きく離れている数値が1.0以上の形容詞に注目する。来館者は[表2]に挙がるこれらの形容詞を感じると展示室空間に良い評価を持つ。3項目全てに挙がる「静か」・「開放的」は特に気をつけなければいけない。

Table2 Large numbers of errors adjective

見やすさ	広い・はっきりと・高い・静か・安全・開放的・すっきりした・おだやか・自然的・落ち着く
すごしやすさ	広い・はっきりと・静か・安全・開放的・すっきりした・落ち着く
疲労感	静か・開放的・安全

4、因子分析

アンケート調査のSD調査による空間評価をもとに因子分析を行った。なお、因子分析は以下の全館共通因子にて行う。

Table3 Determining factors

因子	形容詞	因子解釈
1	暗い 冷たい ぼんやり 低い 狭い	narrow
2	騒がしい 危ない 閉鎖的 落ち着かない うっとうしい	restless
3	日常的 人工的	familiar
4	にぎやか・刺激的・華やか・鮮やかな	vivid

4 - 1 男女別因子得点

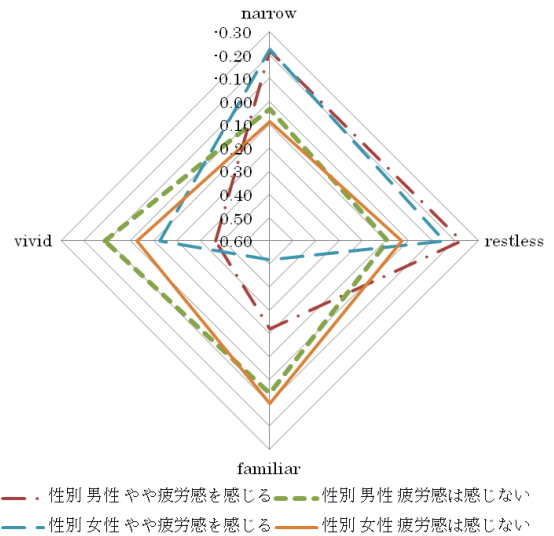


Figure1 Factor scores by gender

女性は「restless」に影響を受けやすく展示室空間を落ち着かない場所だと感じている。逆に男性は「vivid」が強く刺激的な場所だと感じている。反対に、良い評価時の時は、「narrow」「restless」を感じなくなり、「familiar」を感じるようになる。これは、やや女性の方が強い傾向にあり、女性は博物館・展示室を「家族・友人とすごす場」としてとらえていると考える。しかし、「vivid」に関しては男女に開きがあり、女性は疲労感に関して言えば良い影響を受けていない。男性は全ての項目の良い評価時に「vivid」を強く感じることから、展示室空間に「刺激=学術的興味・アミューズメント性」を求めていることがわかる。

5、まとめと提案

博物館展示室空間では、展示物の形状を気を付け、安全で誰しもが見学できる展示を配慮することが必要であり、一方である程度の「刺激」が必要であり、見学をする気をおこさせる、「incentive 性」は重要である。各展示室空間の「incentive 性」を高め、適切な休憩スペースの設置が博物館で快適に見学するために必要である。

博物館の展示室の見学コースを幾つか用意する事を提案する。大空間の休憩スペースを中心に、その周りを各展示室を小空間に分け、連続して見学できるコースを設置すると同時に、各展示室から直接休憩スペースに移動できるようにする。

6、参考文献

- * 内閣府 「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」 H18
- * 文化環境研究所 「Cultivate No.12」
- * 内閣府 「高齢社会白書」
- * 財団法人 日本博物館協会 「日本の博物館総合調査研究報告書」